

日時：令和3年3月29日（月）13：00～14：15

場所：市役所 C311～C313会議室

出席者：下平会長、畠中委員、勅使河原委員代理久保田氏、山下委員、樋口委員、坂委員、中山委員、菅沼委員、森下委員、篠田委員、西塚委員
高田副市長（行財政改革推進本部長）、櫻井総務部長、塚平財政課副参事、岡本人事課長、田中企画課長

欠席者：宮嶋委員、稲垣委員

1 開会

2 あいさつ

（下平会長）

年度末、残り3日のタイトな日程の中、本年度最後の行財政推進委員会に出席いただき感謝申し上げます。生物テロともいえるコロナウイルスの感染拡大により、前回の委員会は書面決議となったため、約半年ぶりの開催となる。そのような中での委員会であったが、今年度の経験を次年度に向けて役立てていければいい。

本日は、これまでの行財政改革の取組の結果と、次期の飯田市行財政改革大綱とその実行計画の内容の説明を受ける。これは既に飯田市議会で承認されている。今年度は次期大綱の策定について、本推進委員会が諮問を受けて協議を重ね、答申を行った。策定された大綱などの内容を確認いただきたいのでよろしくお願ひしたい。

（高田副市長）

年度末のお忙しい時期にご出席いただき感謝申し上げます。去る3月19日に飯田市議会が閉会した。今議会で令和3年度予算を認めていただき、3日後からスタートを切るという状況。後ほど予算の内容について説明させていただくが、新型コロナウイルスのこともあり、その対策を引き続き最優先としながらも、いいだ未来デザイン2028の中期計画4年間の最初の年ということで、かなり大型の予算を編成した。今議会の全員協議会に、次期の行財政改革大綱と実行計画を説明し、了解いただいている。コロナ禍という異例の状況の中にもかかわらず、委員のみなさまに何度も協議いただいた結果として、大綱が策定できたことに改めて感謝申し上げます。この後それぞれ報告させていただくが、これからが取組のスタートであり、ご意見をいただきたいのでよろしくお願ひしたい。

3 協議事項

(1) これまでの行財政改革の取組について

○飯田市行財政改革大綱（平成29年度～平成32年度）に基づく実行計画（2020年度取組及び4年間の取組結果） 資料1 【塚平財政課副参事説明】

（山下委員）

取組の柱2に、時間外・休暇管理システムの導入という記載があり、休暇取得の効果もあったという記述がある。これはどういうもので、ほかにもどんな効果があったかお聞きしたい。

（岡本人事課長）

時間外勤務の申請を紙ベースで行っていたが、これをシステム化できないかということで時間外・休暇管理システムを導入した。以前は、各課の庶務担当者が時間外勤務などの集計をするのに紙ベースで集計し、各課から集まったものを人事課で再度集計をし直すためにかなりの時間を費やしていた

が、システムの導入により集計に係る時間が削減できた。また、所属長が職員の時間外勤務の状況を即座に把握できるようになり、時間外勤務の縮減と、職員の健康管理が併せてできる。業務の効率化に繋がっている。

(山下委員)

庁内のウェブとかLANで管理しているシステムを導入したということか。

(岡本人事課長)

そういうシステムになっている。

(櫻井総務部長)

システムについて、事務の効率化ということもあるが、ICTの活用という観点でとらえると、時間外勤務や年休の取得について、今までは印鑑を押して所属長に提出してというやり取りをしていたが、今は全て電子決裁になっている。ICTの活用という観点で、行革の取組に繋がっている。

(菅沼委員)

2ページの実行計画の目標の、「基金残高40億円以上の確保、地方債残高550億円以下」というところで、2020年度の見込みが記載してあり、両方とも達成見込みということで説明いただいたが、地方債残高550億円以下に対して551.66億円となっており、この数字だけを見ると達成が難しいように感じる。こういった取組によって、今の見込みから減らしていこうと考えているかお聞きしたい。

(塚平財政課副参事)

地方債残高の見込について、現在は予算段階で、実際いくら地方債を借り入れするかという見込みを立てて計上している。今年度の事業が終了して事業費が固まったところで、起債を今年の5月に借り入れる予定でいる。当初想定していた予算額よりも実際の事業費が低く抑えられるケースが非常に多く出てくる。そういったことが主な内容になってくるが、事業費の減少に伴って実際借り入れる地方債の残高は抑えられる。地方債残高の中には、地方債の借り入れで新たに生まれてくる残高と、既に借り入れたものを返済することで減っていく残高とがある。新たに借り入れるもので、借入額が低く抑えられる可能性が高いということから、550億円という目標の達成が可能ではないかと考えている。

(菅沼委員)

デジタル化の取組の中で、公共施設の予約申込システムの導入の検討ということは、今の、対面を難しくしている状況では、非常にいい取組だと思う。これは、全ての施設に対して完全導入を目指しているのか、主要な施設への導入ということでメリハリを付けて導入するのかお聞きしたい。また、導入の目途と、いつ頃スタートするのかもお聞きしたい。

(塚平財政課副参事)

7ページの(2)の①システム化について、令和3年度の当初予算に計上した。「インターネットから施設の予約ができる環境を整備する」と記載してあるが、想定している施設は、勤労者福祉センター、公民館、文化会館、体育施設ということで、これらを同一のシステムで運用し、24時間利用可能とすることで、施設の予約を取れるようにしたい。運用予定は令和3年度中ということで、新年度に運用開始ができるようシステムを構築し導入を図っていきたい。これまでは、体育施設だけとか、公民館だけとか、施設ごとに電話予約や、直接お越しいただいて予約していただくなど個別のやり方をしてきたが、このシステムを導入することにより統一したシステムでの運用となり、コストを抑えることもできるし、市民のみなさまの利便性も向上すると考える。

(2) 今後の行財政改革の取組について

○次期飯田市行財政改革大綱（2021年度～2024年度） 資料2

○次期飯田市行財政改革大綱（2021年度～2024年度）に基づく実行計画（2021年度計画） 資料3

○次期飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画に対する意見等への回答 資料4

【塚平財政課副参事説明】

(下平会長)

今回の議会で副市長は、コロナ禍で行財政運営は緊急事態であり、現時点で今後4年間の財政見直しを立てて数値目標を設定するのは難しいというような発言をされ、その一方で、緊急事態の状況変化を見ながら、具体的な数値目標を検討するというような発言をされたと思う。今の時点で目標設定が難しいということだが、その辺りの説明をお願いしたい。

(高田副市長)

議会の場でも話をしたが、今まさに国から始まって地方自治体は、まずはコロナ対応をしっかりやるということ。さらにこれからワクチン接種も始まるが、ワクチンの供給も含めて状況がはっきりしてこないで、その場その場で情報を得ながらということになってくる。本当に必要な予算をその都度編成するような形になっていて、年間を見通したり、4年後を見通したりということは今は難しい状況にあるのでご理解いただきたい。将来的なことを考えると、リニア、三遠南信自動車道、文化会館をどうするかなどいろいろな課題がある。市民のみなさんにきちんと説明しながら進めていくためには、何かしらの財政運営の目標を持つ必要があるだろうと思う。理解いただけるようにわかりやすく説明でき、数値で評価をいただけるようなことをこれから考えていきたい。おそらく国も、地方交付税を始めとして、地方財政対策についてこれから変わってくると思う。国もかなり財源を使っているのだから、これからどうなっていくのかということを見ていく必要がある。できれば次年度の予算編成までには、なんとか方向性を持って数値目標を立てたい。令和3年度中、しっかりと取り組んでいきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

(3) 令和3年度当初予算について 資料5 【塚平財政課副参事説明】

(菅沼委員)

一般会計の歳入について、新型コロナウイルス感染症の影響で会社の業績や個人の収入は減っていると思う。そうした中で市税としての収入は昨年と比べると減少するのではと考える。「特定財源を最大限活用して」という記載があるが、具体的にどういったことを活用して市として運営していくのか教えていただきたい。

(塚平財政課副参事)

一般財源を減らす工夫という質問だと思うが、「一般財源の使用は令和2年度の当初予算段階と比べ約2億5,000万円ほど減った」と書いてある。どういうことかということ、来年度の予算の中で、主な取組の内容を考えると、令和2年7月に豪雨により大きな災害が発生した。災害自体は令和2年度の予算では収まらず、令和3年度も引き続き予算に計上して取り組んでいく。令和3年度で計上した災害復旧事業費は5億7,000万円くらいある。その中で、7月の豪雨災害は国から激甚災害という非常に大きな災害であると認定を受けて、国の補助金をしっかりいただけるようになった。事業を行うときには起債を借りて事業を実施するが、その起債を借りるにしてもその起債の充当率とか、後ほど交付税で措置をされるという有利な起債を借りられる率も非常に高くなることもあって、事業費は5億7,000万円あるが、特定財源として確保できた金額が5億4,000万円あって、3,000万円程度の一般財源で災害復旧に取り組むことができる。所管部署で様々な事業を行うが、国、県の補助、さらには有利な地方債など相当財源を確保したというのがあって、一般財源の活用という部分ではかなり抑えられた。予算編成については、限られた財源で、市税とか国税といった一般財源をしっかり確保することもやっていくが、実際歳出をどのように抑えていくか、言い方を変えると、一般財源で補てんする額をいかに抑えていくかということの中で、そういった部分について特に令和3年度の予算編成では、注力した。毎年やってきているが、特にそういったことに注力して行った結果、予算規模は大きくなったが、財源をしっかり確保した中で予算が編成できた。

(下平会長)

収入を増やすということをいろいろ考えてみると、特に最近ではふるさと納税の位置づけが重要にな

っている。返礼品についても、地場産品を大いに活用していくことをやっていけば、6次産業とかいろいろな形で普及していくということもあるので、その辺りは今後どのようなことを考えているかお聞きしたい。

(田中企画課長)

ふるさと納税の返礼品については、ふるさと納税の歳入に大きく影響を与える要素であるが、これについては総務省からルールが示されていて、飯田市内で生産する物でないといけない。いろいろな考え方があがるが、これまでの返礼品としては、主に農産品が大変人気があり、そうした物を返礼品にするとリピーターが多くなる。特に人気がある物は、季節ごとにいうと、桃、市田柿、市田柿の加工品、りんごなどがある。これ以外の果物も大変人気があるが、どちらかという一回食べてまた飯田の桃が食べたいと言っていたような返礼品を工夫していくことで、なるべくリピーターを増やして飯田のことを知ってもらい、飯田へ来てもらうという取組に繋がるようにしたい。今後もこういった産業振興に繋がる返礼品を考えていく。

(下平会長)

次年度の予算はこういうことだということで確認いただきたい。

委員のみなさんはまだ任期が残っているので、令和3年度も一緒に飯田市の行財政改革を進めていく立場でご理解ご協力をいただきたい。

4 今後のスケジュール

○令和3年度の行財政改革推進委員会の開催予定について

- ・第1回（令和3年7月下旬を予定）

令和3年度指定管理協定期間終了施設の実績評価に対する意見聴取について

5 その他

事務連絡（事務局）

(高田副市長)

令和3年は、三六災害から60年という年になるが、今年は市民のみなさんと、防災について考える年にしたい。6月には、そうしたきっかけになるいろいろなイベントやシンポジウムが開催される。周知もさせていただくが、みなさんで情報共有できればありがたい。

行財政改革大綱が策定でき、いよいよこれから実行に移っていく。行財政改革は無駄を省くことが目的ではなく、限られた財源の中で市民サービスを向上させるためにどうしていくかということ。そこをみなさんと情報共有できるように、目標値の設定も含めて考えていきたいと思っている。年度切り替えで代わられる方もあるかと思うが、これからも引き続きご協力をよろしくお願いしたい。

6 閉会